

平成 17 年度分野別研究組織 研究成果の概要

「日本経済システムの初期値」と「経路」の 歴史的研究；鉄道草創期を中心に

Historical Consideration on the Beginning Feature and Path of the Japanese Economic System

林田 治男

(Haruo HAYASHIDA)

私はここ数年間、「後発国の中で日本のみが自立化できた諸要因は何か」、「日本型資本主義の形成にどのような過程を経ながら形成されていったのか」という問題を、明治草創期の鉄道に焦点を絞って研究に励んできた。日本側資料のみでなく、研究費の助成により、国立公文書館や土木学会本部等における英国での資料収集、英国の法廷記録、初代技師長；モレルの足跡を追ってのボルネオでの現地調査などを行うことができた。それを踏まえ次のような成果を、平成 17、18 年度には上げることができた。

「鉄道における日本側自主権の確立過程Ⅲ；オリエンタル銀行倒産まで」、2005 年 6 月。

鉄道建設の契機となったレイ契約解約に際し、またその委託業務の一部引継ぎにし、オリエンタル銀行は鉄道に強くコミットしていた。しかし、差配役；カーギルの満期帰国や頭取；スチュアートの死亡などに伴う管轄権の消滅、資材購入の他社移管（単なる仲介業務の廃止）、経営不振による預金預け換え、倒産に伴う業務清算という過程を経て、日本は同行の頸木から徐々に脱していくことができた。自主権確立は同行の経営悪化という僥倖もあったが、日本側が明確にしかし慎重に関係縮小・清算を図っていったことにもよる。本稿ではその過程を明らかにした。（同行が倒産したこと、私企業であることにより資料収集に限界がある。特に同行の権限を記す契約関係書類や委託業務関連資料など。）

「鉄道技師長；モレルの経歴と貢献」、2006 年 6 月。

鉄道の初代建築師長；モレルは、任務遂行のみならず公共事業の推進や人材育成の建議により、また鉄道開業の榮譽に浴することなく志半ばに夭折したことも加わって、日本では高く評価されている。しかるに、生年、生地、学歴、来日前の実務経験など彼の経歴に関し一次資料に当たって探索すると、日本で巷間語られていることにいくつかミスが散見されることが判明した。また調査の過程で、来日前経歴および彼が所属していた土木学会の報告書の存在が彼の日本での貢献や政府首脳への建議の背景を考える上で重要な意味合いを果たしていることが推察できた。来日する前は、ボルネオのラブアン島で石炭会社の技師をしていたが、18 年 1 月の現地調査により、彼は測量と建設計画を立案したが、資金や労働者の手配の問題があり着工完成できなかったことが判明した。（経歴に関して確認できていない部分もまだ若干残存しているので、この論文も完全とは言い切れないが、現段階におけるモレル研究の成果成として、経歴と貢献の結節点を本稿で提示した。）

現在引き続き、借款供与・公債募集、組織構成・人材募集・資材調達を中心に、H.N.レイの当初の目論見や英国での行動を中心に、彼が訴えられた裁判記録を中心に論文執筆に苦闘している。

私はできるだけ一次資料や原典に即しつつ、テーマに挑戦してきた。先行研究は日本側資料を中心に積み重ねられてきたので、その全体像が鮮明でない部分や動もすると偏った解釈がなされてきた感が否めない。バランスの取れた全体像を構成すべく、英国土木学会の入会申請書や追悼記事、国立公文書館での外務・植民地省文書や法廷記録などにより、日本側資料との付き合い作業を重ねてきた。これには研究費の助成が不可欠であり、事実成果も着実に上がってきていることを申し添えておきたい。